国際ロータリー第2750地区
東京多摩グリーンロータリー・クラブ
No. 260 6-33
1996.3.6 発行

Weekly Report

1995～1996年度RIテーマ
真心の行動
慈愛の奉仕
平和に挺身

青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向って
昂って行く姿を示している。

地区の標語 原点に帰りロータリーの心を学ぼう
クラブの標語 親睦と奉仕でクラブの和を深めよう

元気でいってらっしゃい

第２６０回例会報告（2／28）

（1995年～1996年度第33回例会）

司会　　ＳＡＡ委員会委員長　佐伯　和廣
◎点鐘　　会長　萩生田茂夫
◎ロータリーソング　ソングリーダー　吉沢　洋景
「四つのテスト」
◎お客様紹介　　会長　萩生田茂夫
新倉　良三様（東京町田東ＲＣ）
関野　　滋様（東京町田東ＲＣ）
小島　政孝様（東京町田サルビアＲＣ）
小川　康夫様（東京町田サルビアＲＣ）

◎会務報告　　会長　萩生田茂夫

２月21日当所におきまして、第２回クラブ協議会を開催いたしましたところ、各委員長から上半期の報告と、あと残された数カ月の間の未達成の分のお話をいただき本当にありがとうございました。最後のディスカッションにおきましては、会員増強について活発な御意見をちょうだいして大変有意義なクラブ協議会を行うことができました。ありがとうございました。

◎幹事報告　　幹事　橋口　洋三

1） ３月８日、９日に東京ベイＮＫホールで開催される地区大会には纏まって行きたいと思いますので、ご都合のよろしい方はご一緒下さい。
３月８日(金)12:00登録、13:00点鐘ですので
10:30　多摩センター発　特急新宿行
３月９日(土)８:30登録、９:00点鐘
7:06　多摩センター発　普通調布行
両日共、多摩センター駅ホーム中央辺り(エスカレーターを降りた所)に集合して下さい。
地区大会出席で３月６日(水)の例会に欠席を予定されている方がありましたら、早目に事務局までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

2） Ｇ．Ｓ．Ｅ(研究グループ交換) 受入チームメンバー
３月２日来日　ＲＩ第7770地区(米国サウスカロライナ州)ＧＳＥ派遣チーム結団式と受入チーム歓迎パーティー開催のご案内がきています。
３月４日(月) ホテル・メロディアンパシフィック東京で赤尾ＧＳＥ委員、萩生田会長が出席の予定です。

3） 先週の木曜日２月22日に中央企画(株)馬場輝彦氏へ多摩グリーンＲＣ事務所の退去届(３月30日退去)と花見例会、お花見親睦ゴルフ大会の招待状を会長、幹事で届けてきました。

4） 本日第16回理事会を例会後、サファイアで開催します。役員、理事の方、出席よろしくお願いします。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ
会　　長：萩生田茂夫　副委員長：~~吉屋警太郎~~ 山崎　光一
幹　　事：橋口　洋三　委　　員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長：小城　章員　関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿
事務局：東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491
例会場　多摩そごう7F　バンケットルーム
例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ニコニコＢＯＸ　親睦活動委員会委員　伊澤ケイ子

小川康夫様：お世話になります。萩生田会長さんの激励に参りました。
新倉良三様：お世話になります。
関野　滋様：小野路のロータリアンで伺いました。よろしくお願いします。
小島政孝様：萩生田会長への応援で参りました。よろしくお願いします。
萩生田茂夫：お客様ようこそ。
橋口　洋三：本日、理事会を例会後サファイアで開催します。役員、理事の方、出席よろしくお願いします。
横倉　舜三：２月の誕生祝をいただけるそうですので。
小城　章員：遠藤さん、内田さん、原稿ありがとうございます。
宮本　　誠：鈴木なつみさん、元気で行ってらっしゃい。
村上　　久：次女が、慶応義塾女子高等学校へ合格出来ましたので。（久し振りに目頭が熱くなりました。）
小坂　一郎：次期会報委員会打ち合わせました。皆さんからのニコニコです。
赤尾　恭雄：お客様、ようこそ。
遠藤　二郎：太田屋酒店２月23日上棟しました。オメデトウゴザイマス。
津守　弘範：鈴木なつみちゃん、元気で行ってらっしゃい。
横倉　　譲：会員推せんご協力ください。
関岡　俊二：交換学生の皆さんようこそ。
伊東　　巌：花見例会の予算書が本日の理事会で無事通過すること、また、会員皆様の多数の参加を希望しております。西川さんには、ご迷惑かけて。
海野　栄一：家内の誕生祝いをいただきましたので。
北村　幸彦：家内の誕生祝いをいただいたので。
本日合計　　金46.000円　本年度累計　金858.611円

◎出席報告　　出席委員会委員　　大松　誠二

会員総数	54名（１名出席免除者）
出席者数	48名
本日出席率	90.57%
２/14出席率	83.02%

■メークアップ　　２名
杉山　英巳（2／22　調布むらさき）
伊神　　稔（2／17　青少年交換委員会）

■欠席届出者　　５名
風間　茂穂　　根本　泰守　　新海源四郎
高野　範城　　山崎　光一

◎結婚記念日、誕生日御祝
親睦活動委員会委員　　伊東　　巌

◆結婚記念日御祝
遠藤　立一、典子様
伊神　　稔、信子様

◆誕生日御祝
足立潤三郎　　横倉　舜三

◆令夫人誕生日御祝
海野　幸江様　　戸田　晴実様　　須藤トメ子様
北村　　操様　　奥木　道代様　　藤本　正子様
臼井　初枝様　　伊藤　保子様　　遠藤　典子様

◎米山功労クラブ表彰
米山奨学事業委員会副委員長　伊藤　英也
橋口　洋三会員、ありがとうございました。

《来日交換学生　メッテの近況》　　関岡　俊二

私の所に来て１ケ月になろうとしておりますが、このように大変元気で、先日の地震すら気付かないで寝ている程で大丈夫です。メッテの一番表情がゆったりするのはお母さんからの手紙を読んでいる時です。友達からの手紙も良いですね。交換学生の方にもぜひ手紙を出してやって下さい。３月13日メッテの誕生日です。プライベートですがぜひ一品お持ちの上おいで下さい。この間風間さんとスキーに、私の所では温泉に行ったりしておりますが、学校が休みで時間をもてあましておりますので、ぜひさそってやって下さい。

◎社会奉仕委員会報告　　副委員長　小林　和夫

特別養護老人ホーム　桜ヶ丘延寿ホームでのゲーム台購入のお手つだいをさせていただきました。みなさまの御協力ありがとうございました。

◎ブラジル派遣学生　　鈴木なつみ様

先日、テレビで横浜国際女子駅伝の放送を見ていました。走り終えたある選手にアナウンサーが“今日の調子はどうでしたか？”と質問すると、“常に監督から「自分のペースをくずすな、最初であせると最後の追い上げでつらくなるぞ」と言われているので自分のペースでいい走りができました。”と答えていました。私はその言葉を聞いてオリエンテーションやキャンプでのスピーチの練習を思い出しました。スピーチをするためにあたってローテックスが私たちにくれたアドバイスの一つに、“あせると自分の言いたいことからかけ離れていく”ということがあったからです。

◎タイ派遣学生　　和気　真菜様

８月にタイに派遣される事になりましたが、高校３年生で進学という問題もあり、本当にいそがしい毎日をおくっているのですが、最近少し卒業のめどもたって、やっと本格的ににタイのことについて考えられるようになりました。それで、やっぱり感じることは、日本人はアメリカとかヨーロッパにあこがれてしまう所がありますから、先生にしても、友達にしても最初の反応は決して良いとは言えないのですが、そんななかでも私の友達は、絶対良い経験が出来るし、私にとって損なことは絶対にないと言ってくれて、そんなことに励まされながらがんばっています。

◎アメリカ派遣学生　　小野　直美様

８月にアメリカに行かせて頂くことになっています。小野直美です。８月なのでまだあんまり実感はないのですが、あと半年あるので、今は英会話や主な世界情勢、生活習慣の違いなどをローテックスの方に教えて頂いたりして、ゆっくりと準備を進めています。

派遣中の１年間は、とても楽しみではありますが、今の生活をまるで日本へ置いていくわけですからやはり少し不安はあります。

◎鈴木なつみ様送別会　カウンセラー　津守　弘範

鈴木さんは最後の例会出席となりますので、この場をかりまして送別会を行いたいと思います。当ＲＣよりささやかな餞別を会長よりお願いいたします。

【卓　話】

イニシエーションスピーチ

トヨタ西東京カローラ株式会社　取締役会長　内田　茂男

ソロモン王にみる公僕への自覚

皆さん夕食の団欒の一時にお耳触りの悪いお話しで、誠に恐縮ですが暫くご辛抱くださいますようお願いいたします。最初にかたどおり自己紹介と只今勤めております企業の紹介を簡単にさせて頂きます。高校大学は旧制を昭和28年に卒業してトヨタ自動車の名古屋本社に入社し、昭和54年現在のトヨタ西東京カローラへ転籍で今日に至っております。私の趣味は囲碁将棋玉突きゴルフを幅広いですがいずれも腕は悪くお付き合い程度です。現住所は世田谷の岡本で砧公園の近くです。家族は家内、息子、娘と孫一人です。トヨタ西東京カローラは従業員七百名余り、新車月販千台年商三百億円弱の中企業です。扱い車はウィンダム、カムリ、カローラ、カローラ２、のセダンからエスティマ、ルシーダ、タウンエース、RVAMのRV、及びアメリカ製セプターワゴン等です。以上のトヨタ車の他にVOSKSWAGEN，AUDIの輸入車を扱っております。今後ともよろしくお願いもうしあげます。

さてトヨタ西東京カローラは1992年２月、会社の創立25周年を機に多摩市に新本社を建築移転しました。25周年の記念事業として願いを起こし、多くの関係者の同意を得て、資金調達から設計施工に至る迄、かなりの年月をかけて尽力したので、竣工した時の喜びは格別であった。今日は新本社の建築資金調達から社屋の運営の実状を説明し合わせてわたしの経営理念の一端をご理解願えれば幸いと思います。先ず資金調達ですが用地については二十数年前に現在の関戸に取得しておりましたので社屋設備の建設費が対象です。総額で凡そ30億円を要しましたが、自己資金ではとても足りません。借入金は当時利率が高く、増資をすれば配当が必要となるので結局株主と相談の上、東府中駅前の

旧本社の土地を売却しました。1989年当時は未だバブルの絶頂期で買い手も多く、国土法の規制は受けたが必要資金を賄って余りある価格で売却出来ました。土地の簿価との差益は当時80%の買換え資産の適用が出来、節税にもなりました。

たかが建物、外見より内容であると信じていたのであるが、新館が建ってみると、意外と内外の見る目が変わってきました。西東京カローラのショールームの中に造った多目的ホールは一般公募で「グランプラス」と命名しました。写真展、お茶会、クラシックコンサート等当社主催のイベントを定期的に開催する一方、子供のピアノ発表会、陶芸展、地元合唱団の発表会等、地域住民に無料で貸し出しています。最近はごたぶんに漏れず自動車ディーラーの経営は苦しいが、グランプラスの運営は長い目でみればプラスに働くものと信じ、継続したいと願っています。

さて、新本社の建築の願いを起こした時、旧約聖書のサムエル記と列王記及び歴代誌を改めて読みなおしてみた。その理由は、有名なソロモンの神殿と王宮建築の経緯を尋ね、同時に栄耀栄華を極めたソロモン王の行状の軌跡を辿って見たかったからである。

三書を読んで特に感銘を受けた点にふれてみたい。

神殿建築の資金

「神殿建築の宣言と資金調達の手段」　ダビデは全イスラエルの長たる者を全て招集し、長年の構想を具体化した詳細な設計図を息子ソロモンに手渡した。そして全会衆を前に「・・・わたしは神殿建築に対する熱い思いの故に、準備した財宝に加えて、わたし個人の財産である金銀を神殿のために寄贈する。・・・会衆よ、今日自ら進んで手を満たし、主に差し出す者はいないか」と呼びかけた。すると家計の長たちは自ら進んで財産を寄贈し、王と民は自ら進んで捧げた事を喜んだ、と記されている。

ここで、注目すべきは、王が神殿建築のために自らすすんで私財を投じた事と、民の税金によらず、自発的な寄進によって資金調達をしたことである。わが国でも昔は、政治家を志す者は井戸塀を覚悟したものであるが、最近は目的のためには手段を選ばぬ輩が増え、寂しい限りである。それどころが、昨今の住専の融資実態を見ると政府も金融機関もそして借り主もまさにバブルと共に崩壊した。呆れて物も言えない。

「ソロモン王の出生と晩年」　ソロモンはダビテとバトシェバの間に産まれた第二子である。ある日の夕暮れに、ダビデは午睡から起きて、王宮の屋上を散歩していた時、一人の女が水を浴びているのを目に留めた。女は大層美しかった。・・・ダビデは使いの者をやって彼女を召し入れ、床を共にした、とサムエル記にある。

ダビデはバトシェバが、彼の忠実な部下ウリヤの妻であることを知ったが、様々な策を弄して失敗に終わるや、遂にウリヤを激しい戦いの最前線に出し、戦死させてバトシェバを自分の妻としてしまったのである。ダビデは他の女に産ませた異母兄が沢山いたにもかかわらず、ソロモンに王位を継承させた。ソロモンは王位をついだ当初は神を信じ、神から知恵と識見と富を与えられ、華麗なる神殿を建築した。しかし晩年には権勢を振るって、近隣諸国から、馬と金銀を貢がせ、千人の王妃と側室に心を迷わせた。ソロモンの死後、イスラエルは分割され、間もなく神殿は崩壊するのである。

“崩壊”に抱く疑問

「王道を歩もう」　私はあの華麗なるソロモンが神殿が、何故短期間に崩壊したのか、疑問を抱いていたが、先年桃井牧師の「王道を歩む者」と題する説教を拝聴し、謎が解けた。申命記に「王に関する規定」という章がある。王たる者は(１)馬を増やしてはならない　(２)大勢の妻を娶ってはならない　(３)銀や金を大量に貯えてはならない　とある。(１)の馬を増やすの馬は軍馬で、軍事力を拡大するなということである。剣をもって制する者は剣で滅びるのである。(２)や(３)は女に心を迷わせたり、必要以上の大金をもてば人間何をするか分からない。ソロモン王の晩年はこの三つの規定を全て犯したのである。

しかし、英知の誉れ高いソロモンが、この規定を知らなかったとは思えない。

マルチン・ルターは「キリスト者の自由」の中で、キリスト者はすべての者の上にある支配者であって従属しない者である、と同時にすべての者の下にあって仕えてゆく僕（公僕）であるといっている。支配者として君臨したソロモン王は、人民の公僕たる任務を忘れたのではなかろうか。今日においても、全ての偽政者は、支配者たる以前に、罪深い人間として神を畏れ、公僕たる自覚を持つべきであると思う。

（今週の担当：飯島　裕美）